

昭和56年度漁況海況予報事業

結果報告書

I 調査の実施状況

1. 実施機関および担当者名

沖縄県水産試験場 漁業室

次長兼室長 嘉 数 清 (総括)
兼 浜 安 信 (調査・情報交換推進)
川 崎 一 男 (調査)
喜屋武 俊 彦 (調査・卵稚仔取りまとめ)
山 本 隆 司 (調査)
金 城 清 昭 (調査・海況取りまとめ)
海老沢 明 彦 (調査)

2. 海洋観測調査事業

1) 沖合定線調査

(1) 実施調査船

船 名：函 南 丸

乗組員：船長 赤 嶺 正 弘, 喜 納 政 宥 他 16 名

総屯数：216.09 トン 速力 11 ノット

主機関：新潟鉄工所製 6MG25BX, 1,000 PS × 1 基

補機関：ヤンマーディーゼル製

2KFL-T, 185 PS × 2 基

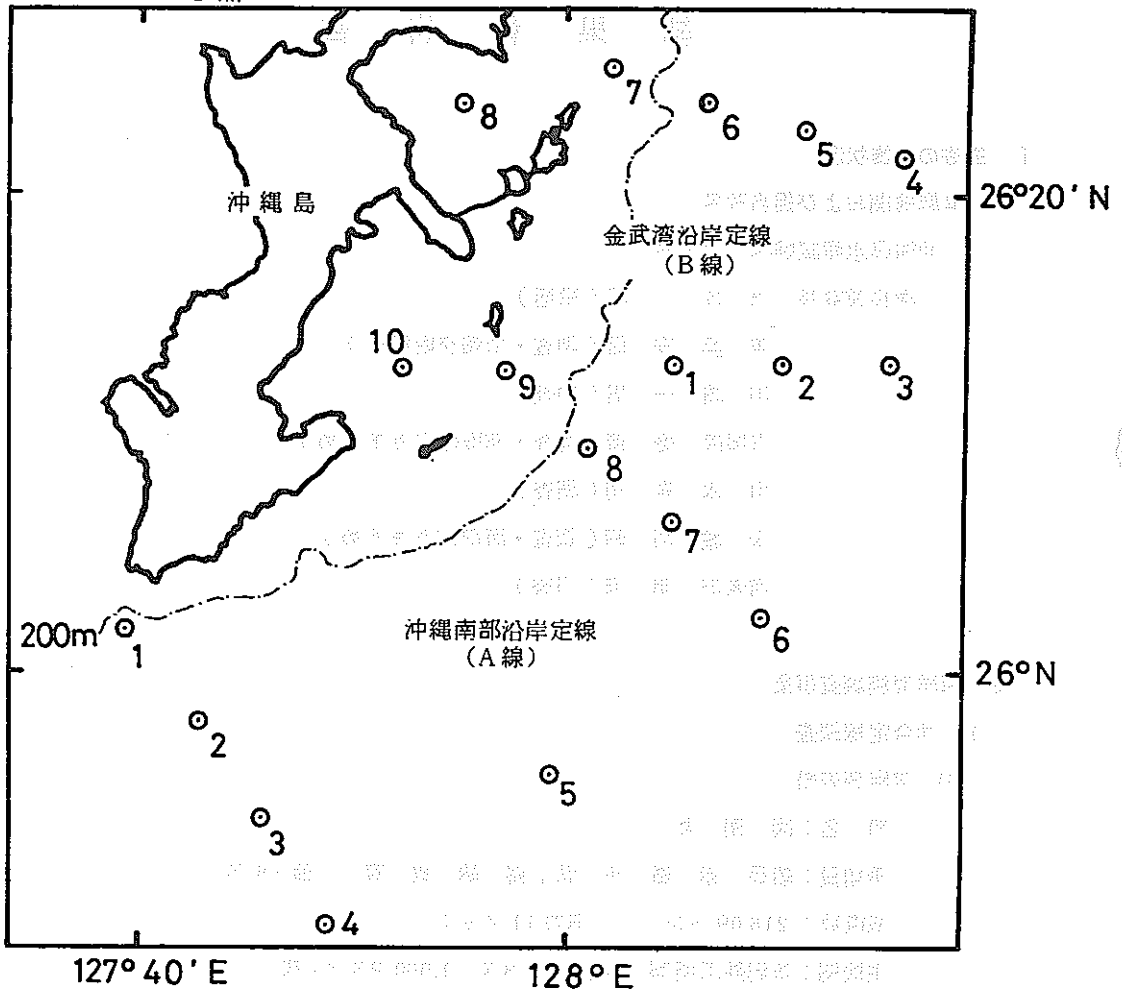
測探機：鶴見精機製 TS-VSI型

ワイヤー, 2.1%, 1,500m

音響測探機：日本電線, NJA-820-B

音響サリノメーター：鶴見精機製 TS-E2 及び YEO-KAL, Model 601 MKIV

(2) 観測定線図 図1参照



(3) 調査項目

- a) 水温・塩分の各層観測 (0.10.20.30.50.75.100.150.200.300.400.500.600.800m層) 12点
- b) DBT観測 11点
- c) 一般気象海象 23点
- d) GEKによる表面流況観測 23点
- e) 卵・稚仔魚採集 丸稚ネット(口径130cm)の約2ノット、5分間の表層水平曳 12点
- f) プランクトン採集 丸特ネット(口径45cm)の約2ノット、150m深から表面までの垂直曳 12点
- g) 潮目、DSL等 適時
- h) 栄養塩 $\text{NO}_2\text{-N}$ 、 $\text{NO}_3\text{-N}$ 、 $\text{NH}_4\text{-N}$ 、 $\text{PO}_4\text{-P}$ について0m層から300m層までの各層について定量 12点(第3及び第4航次のみ)

※：400m層以深は、黒潮の開発利用調査研究(KER)による。

※※：この項目は、※と同様。